

【様式1】 平成29年度「岐阜県ふるさと教育表彰」実践報告書

市町村名	下呂市	学校名	益田清風高等学校			
校長名	田中 彰	対象学年	1～3年生	人数	157	人
活動名	①地域の川文化の研究（2年） ②地域の民話から探る民俗研究（2年） ③ふるさと観光案内（3年生） ④観光プランコンテスト（3年生） ⑤天領朝市（3年生） ⑥エゴマ栽培と商品開発 ⑦地域の観光資源発掘・ホテル実習（3年生） ⑧ふるさと出前授業（2年生） ⑨商工会青年部との座談会（3年生） ⑩地域行事へのボランティア参加（全学年）	時間数	181	時間	継続年数	11年
題材	1 自然環境（山野・河川・動物・植物・その他） 2 歴史（出来事・史跡・先人・その他） 3 文化（芸能・芸術・民話・風習・その他） 4 地場産業（農業・水産業・伝統工芸・その他） 5 地域との積極的な関わりをつくる活動等 ボランティア活動・商工会との座談会 6 その他（ ）				[益田川・蛍石] [桜洞城] [萩原町民話] [観光] [フィールドワーク・] []	
複数年継続するための工夫改善	<p>・これまで10年間で培われた、総合学科の地歴科・商業科の科目を中心とした学習活動の積み重ねをもとに、川、民話、エゴマなどこれまでに取り上げたことのないテーマ・題材を積極的に発掘して取り組んだ。</p> <p>・地域の人々との座談会やボランティア活動など、生徒が主体的に取り組めるように計画段階から参加させるようにした。</p>					
<p>1 ねらい</p> <p>本校の教育方針である「地域社会の一員としての責任と役割を自覚し、地域に貢献しようとする態度を育てる」を具現化するため、地域と連携したさまざまな学習活動を実践している。特に下呂地域の基幹産業である観光分野を題材に、観光産業そのもの体験し、学ぶだけではなく、観光を通して地域を学び、地域を愛して、将来、地域社会に貢献できる人材を育む教育を実践した。</p> <p>2 活動の概要</p> <p>【科目名 社会探究】</p> <p>①地域の川文化の研究</p> <p>下呂市を流れる益田川について、漁業など川の恵みや川に関する伝統文化について、フィールドワークを中心に探究し、地元地域と川との関係を改めて理解することができた。調査結果はレポートにまとめた。</p> <p>【科目名 地域研究】</p> <p>②地域の民話から探る民俗研究</p> <p>下呂市萩原町の民話「川上へ流された仁王さま」の舞台を実際に訪れることで、身近な地域への考察を深めた。成果はレポートにまとめて発表した。</p> <p>【科目名 観光地理】</p> <p>③ふるさと観光案内</p> <p>下呂市観光課と連携し、5月の大型連休中に下呂温泉を訪れた観光客に観光案内を実施した。観光客がイン</p>						

スタグラムを通して、下呂の情報を発信してもらえよう、観光中心地での写真撮影の手伝いを積極的に行った。

④観光プランコンテスト

ウォークツアープランをテーマに、地元の行政機関、旅行会社、観光協会等と連携し、地域の観光資源を積極的に取材して、地域の活性化につながるオリジナルの観光プランを提案した。

【科目名 課題研究】

⑤天領朝市

6～11月毎週金曜日に萩原町商店街で開催される天領朝市に参加。地元野菜と地域特産品の他、生徒が開発に関わった商品の販売及び朝市の準備、片付けなどの運営補助に関わった。地元商店街の活性化に協力した。

⑥エゴマ栽培と商品開発

市内でエゴマ栽培を体験し、エゴマを使った商品開発に取り組んだ。「トウモロコシジェラート」に続き、地元の店と協力してエゴマのジェラートを提案し商品化した。また、地元の農家、企業、商店と協力して、トウモロコシジェラート、カフェラテジェラート、ブルーベリージェラート、金福丸カステラなどの新しい商品を開発した。これらの商品は、天領朝市等の地域イベントで販売し、地域の特産品となるエゴマのPR活動を行った。

⑦地域の観光資源発掘・ホテル実習

下呂市金山町の蛍石について、観光協会と連携して観光資源化の計画に加わった。また、下呂市観光課、星城大学、旅行会社と連携し、下呂市馬瀬地区の観光プラン開発に加わった。本年度から、下呂市内のホテルで実際の業務を体験し、産業としての観光を学ぶホテル実習を始めた。

【英語】

⑧ふるさと出前授業

萩原小学校2年生を対象に夏と冬の2回、高校生が英語の出前授業を実施した。生徒中心に事前準備を進め、地元小学生との交流を深めた。

【その他】

⑨商工会青年部との座談会

萩原町商工会青年部と3年生が、萩原の活性化について座談会を行った。まちづくりについて話し合い、具体的な提案をまとめた。生徒の地域理解を深め、地域への愛着を高めるきっかけとなった。商工会からは座談会の次年度以降も継続の申し入れがあった。

⑩地域行事へのボランティア参加

馬瀬川あゆ祭り、小坂まるごとマルシェ、ふるさと萩原夏祭りなど下呂市内各地域で開催されるイベントへボランティアとして参加し、イベントの企画や物品販売、観光案内などに取り組んだ。地域活性化に協力するとともに、地域の人々との交流が深まり、地域への愛着が高まった。

3 地域住民との関わり、地域社会への貢献の様子

【社会探究・地域研究】

現地に出向き、聞き取り調査に基づく作品制作を実施し、地域の歴史を学びながら地域住民の思いや願いを理解し、地域文化を体感することができた。制作作品は各種コンクールに出品し、下記のような評価をいただいた。

- ・第13回「地域の伝承文化に学ぶ」コンテスト（國學院大學・高校生新聞社主催）
地域民話研究部門〔団体〕佳作、地域文化研究部門〔団体〕佳作

【観光地理】

観光を通して地域を理解し、地域について考える授業を展開している。地元下呂市を巡るオリジナル観光ツアープランは、下記の大会に出品した。

- ・第9回全国高等学校観光選手権大会（観光甲子園・全国高等学校観光選手権大会組織委員会主催）

【課題研究】

地域の基幹産業である観光を通して、地域の産業、社会、文化を学ぶ活動を行い、地域に対する興味・関

心を高め、理解を深めることができた。また、地域の人と共に商品開発や観光資源開発を行い、交流を深め地域に貢献できた。

【英語】

地元小学校との交流を通じて、自分たちの学びの成果を発揮する場を設けることができた。また、小学生との交流を通じて、異なる世代とのコミュニケーションの方法、その意義を実感することができた。

【その他】

地元の産物を材料とした様々な食品の開発は、実際に地元の店で販売されたり、飲食店で提供されているものがある。また、観光協会や商工会との話し合いの中で生まれた観光プランや、地域活性化のアイデアは、「若い人の大胆な発想」と評価され、商品化や実現に向けて動き出しているものもある。

4 活動を通しての児童生徒の変容

体験的学習や地域の歴史、文化、環境を探究する学習を通じて地域と積極的に関わることで、地域に対する理解が一層深まり、地域への愛着が増している。特に、生徒自らのアイデアが、地域の人々の協力で商品や料理レシピ、観光プランとして具体化され、地域の人達に評価されたことによって、自分達の手で地域を変えられる、貢献できるという自信と誇りを得ると共に、地域と関わる諸活動にも、これまで以上に主体的、積極的に参加する姿勢が見られるようになった。